

2007年7月4日

日本ガス協会 野村会長 会長会見発言要旨

■最近の都市ガス業界の状況

原油価格については昨年夏に戦後最高値を更新し、その後一旦は下落したものの、最近再び上値を伺う状況にある。LNG価格も、この原油価格の上昇に連動する形で、今後、高水準が続くことが懸念される。その背景にあるのが、急激な経済成長を遂げる中国をはじめとするアジア諸国の旺盛なエネルギー需要や、資源ナショナリズムの台頭などによる供給面での環境変化である。わが国のエネルギー政策も、「新・国家エネルギー戦略」に見られるように、国を挙げてのエネルギーセキュリティ強化に向けて舵が切られたところである。

一方、都市ガス市場においては、規制緩和が更に進展し、本年4月からは小売り自由化範囲が年間契約ガス使用量10万立方メートル以上に拡大された。これにより、わが国の全ガス販売量のほぼ6割が自由化されたことになり、今後更に競合が激しくなると考えている。

このような中、都市ガス業界では、昨年度も全国の都市ガスのお客さま件数、ガス販売量ともに着実に実績を伸ばすことができ、ガス販売量については1978年度以降29年連続の増加となった。

家庭用部門において高効率ガス給湯器、業務用・産業用部門においては天然ガスコージェネレーション等の普及拡大に努めてきた。家庭用の高効率ガス給湯器については、2010年度における都市ガス業界の自主的な累積普及目標台数として、潜熱回収型給湯器であるエコジョーズについては200万台、家庭用コージェネレーションであるエコウィルについては17万5千台としている。2006年度までの実績は、エコジョーズは37万7千台、エコウィルは4万1千台であった。

また、2006年度末における天然ガスコージェネレーションの導入設備容量は約400万3千kWで、前年度より約41万kW、11%増加した。お客さまにご評価頂き、2006年

度も業務用・産業用ともに順調に伸びていると考えている。

業務用については、ミラーサイクルエンジン等数百kW規模の高効率コージェネレーションの導入が増加した。また数十kW以下の小型のガスエンジンコージェネレーションの設置台数が伸びている。

一方産業用については、特にここ2～3年、2000kW以下の中小型のコージェネレーションに加えて、数千kWクラスの大型のガスエンジンやガスタービンの導入件数が増加している。発電効率が43～45%と高効率な数千kWクラスの大型ガスエンジンが開発・発売され、電気の使用比率の高い工場に対しても導入できるようになってきており、天然ガスコージェネレーション導入のマーケットが広がっている。

また、先般開催されたハイリゲンダムサミットでの首脳宣言「世界経済における成長と責任」において、気候変動やエネルギー安全保障への対策の中に、コージェネレーションを促進すべきとの内容が盛り込まれた。来年の洞爺湖サミットにおいて、IEAが「将来競合力のある代替エネルギーについての導入シナリオと導入戦略」について報告すると聞いているが、その中でコージェネレーションがCO₂削減の有力な手法の一つとして提言されると聞いている。都市ガス業界としては、今後とも天然ガスコージェネレーションの普及に更に努める。

(今年度の活動)

日本ガス協会では、去る6月14日に、通常総会を開催した。事業計画では、まず何よりも「お客さまのご信頼回復」を最も重要な行動指針と位置づけ、「都市ガスの安全・安心を確保すること」と「ガスのある暮らしの素晴らしさをご提案すること」等を重点課題とした。将来にわたってお客さまに都市ガスをご選択頂くため、全国の都市ガス事業者自らがそれぞれの地域において、お客さまの身近で姿が見える活動を実施していくことが必要であると会員事業者に訴えた。

(安全・安心)

一点目の「都市ガスの安全・安心を確保すること」に関しては、「都市ガスそのもの」の安全・安心と、「ガス機器」の安全・安心という2つの課題がある。

「都市ガスそのもの」の安全性を高める活動については、今年1月に北海道北見市でガス洩れが起き、お客さまが亡くなられるという事故が発生した。都市ガス業界としては、「経年管の対策」や、「一酸化炭素を含む都市ガスを供給している事業者について天然ガスへの転換を9ヶ月前倒しするという対策」等、今回のような痛ましい事故は二度と起こさないという不退転の決意で対策を推進しているところである。日本ガス協会としても、各地の会員事業者を、全国で支援をしていく所存である。

「ガス機器」を安全に、安心してお使いいただくために、3つ、安全の方法がある。安全な機器を作るという「作る安全」、お客さまがガス機器を使う時での「使う安全」、そして我々都市ガス事業者がお客さまのガス設備について点検させて頂いたりガスの安全についてお知らせしたりする「お知らせする、調べる安全」である。

「作る安全」については、ガス機器メーカーさんがガス機器を作られるが、ガス機器メーカーさんと都市ガス事業者は一心同体である。良いガス機器を作るための協力が、今まで以上に必要であると考えている。

一方、「使う安全」については、経年劣化による事故を防止し、お客さまがお持ちになり管理されているガス機器についていつでも安全にお使い頂けるように、都市ガス事業者がまずできることはご使用上の注意を従来以上に分かりやすくお客さまにお知らせすることである。

定期保安巡回については、内管漏えい検査等を40か月に1回行う法律上の義務であるが、全国2000人を超える定期保安巡回要員が一軒一軒のお客さま宅で確実な作業を励行する「調べる安全」とともに、これからはむしろご信頼回復のための絶好の機会と捉え、安全に関する情報を従来以上に分かりやすくお知らせしていきたいと考えている。

(ウィズガス)

「ガスのある暮らしの素晴らしさをご提案すること」について、昨年度は「ウィズガス元年」であった。全国の都市ガス事業者で、「ウィズガス」という共通のコンセプトワードを掲げて「ガスのある暮らしの素晴らしさ」を積極的にお客さまにご提案してきた。また、LPガス業界、簡易ガス業界、ガス機器メーカー業界、キッチン・バス業界、住宅業界といった関連業界の皆さまとの連携をさらに強化してきた。

今年度については、「安全・安心」を基本としつつ、ガス本来の持つ「パワー」、「快適性」、「省エネルギー性」といった「ガスのある暮らしの素晴らしさ」をあらためて整理し、さまざまな機会や媒体を通じて、お客さまに情報発信したい。また、関連業界との連携については中央だけにとどまらず、全国各地の都市ガス事業者自らがそれぞれの地域に根差したウィズガス活動を展開していきたい。全国に「ウィズガスの輪」が広がることを大いに期待している。

今年度は特に、全国親子クッキングコンテストや食育セミナーなどそれぞれの都市ガス事業者が各地域において関連団体と連携し、かつ、お客さまにもご参加頂ける、お客さまの身近なところで幅広い活動を展開していく。

以 上